

Ⅲ 気象海象と増養殖に関する水産海洋研究座談会

主催 水産海洋研究会

日 時 : 昭和50年3月10日(月) 10:00~12:30
会 場 : 東海区水産研究所 第1会議室
コンピーナー : 平野敏行(東京大学海洋研究所)
大塚一志(東京水産大学)

話題および話題提供者

1. 伊東海洋気象観測塔における水温変動について
西山勝暢(気象研究所)
2. 三河湾の環境, とくに貧酸素水塊の形成と貝類の生産
田中弥太郎(東海区水産研究所)
3. 的矢湾における最近の異常低水温と生産
佐藤忠勇(的矢湾養蛎研究所)

1. 伊東海洋気象観測塔における水温変動について

西山勝暢(気象研究所)

本誌38~48ページに詳細に報告されているので、こゝでは省略する。

2. 三河湾の環境, とくに貧酸素水塊の形成と貝類の生産

田中弥太郎(東海区水産研究所)

別枠生態系研究(昭和47-51年度)のなかで、三河湾の富栄養化海域における貧酸素水塊の形成が、アカガイを主とした貝類の生産におよぼす影響を、愛知県水試職員と協力して検討した。

昭和49年度までに行なった試験貝のへい死率、アカガイ類（アカガイ・サルボウ）の再生産（幼生の分布・稚貝の付着・生長・減耗）および貝けた網採集の諸調査結果は、DOを主とした観測値との対比から、三河湾における貝類生産が貧酸素形成と関連性が大なることを知った。

東三河湾においてアカガイの大量へい死時期は夏季（7～9月）、へい死率は下層で著しい。湾奥部の表層は幼生の密度は高く、7月下旬設置の採苗器にサルボウ稚貝がおびただしく付着した。酸欠化の海域および層位を避けることにより、アカガイの減耗防止と採苗・養成が可能である。アカガイは海水が停滞し、酸欠化しやすいシルト地に生息するためと、産卵期は夏季であることから、この貝の発生活長とDOとの関係をよりはっきりとらえるため、室内実験も一部推進中である。

3. 的矢湾における最近の異常低水温と生産

佐藤 忠 勇（的矢湾養蛎研究所）

（原稿未着）